



冠
附
加
法
一
冊
全

9
3869
83



特
3869
83

83

利
3942
17

大正七年三月廿四日
寄
室井平藏
贈

能世抄改字序

荻原州以日徳家の

能世と蒐めかゝし

くはまゝの書の一草紙

はらう予をまをばて

ら世を因し何ら選の

綴き何嘆すらまに

は世の一大本目あり

ゆるみずるにゆく

及後せはう所しきてぬ

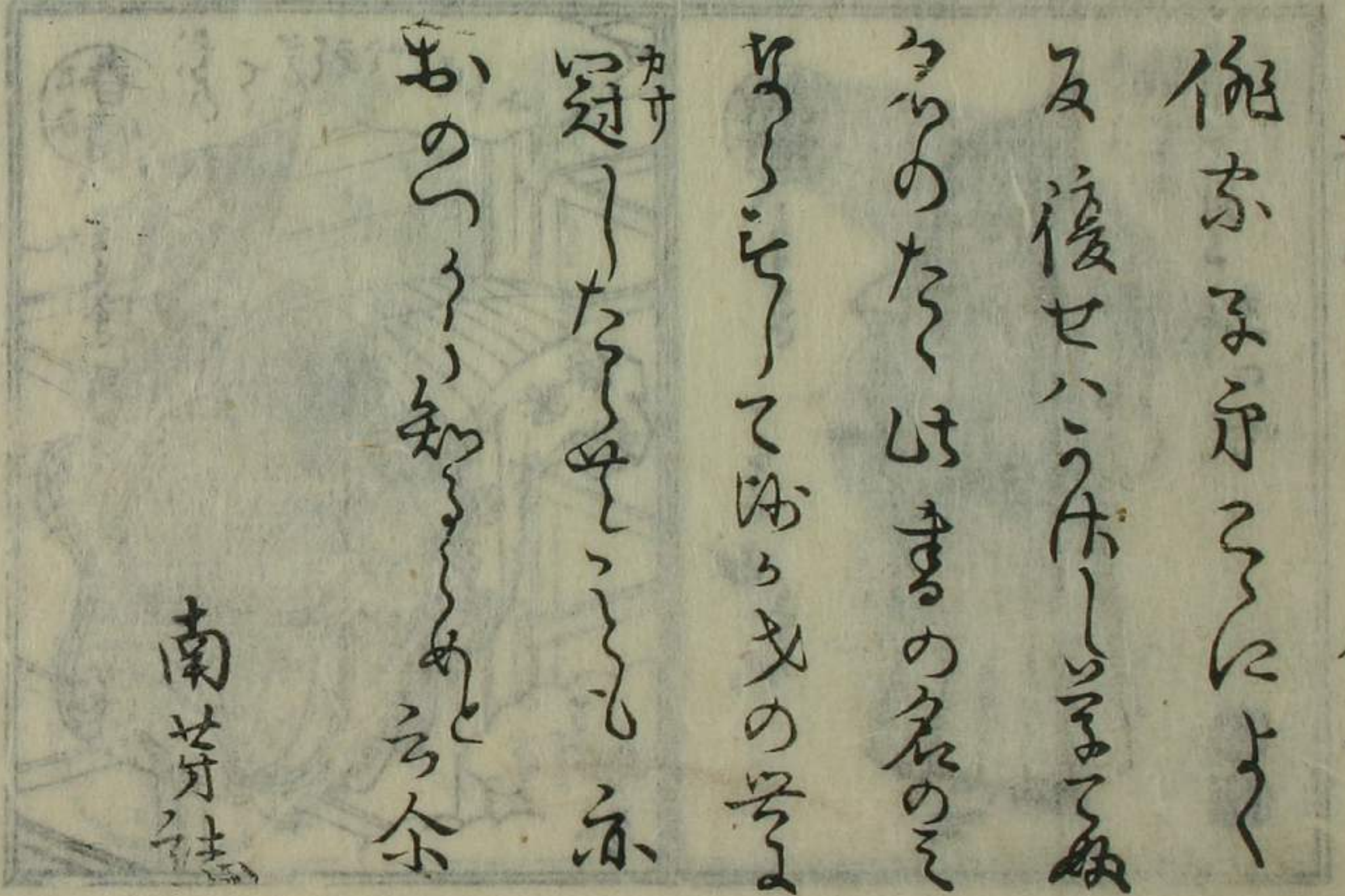
うらのたきけまきの名のも

りうとてはう女の号よ

冠したるも亦

おのうら知るるも亦

南芽結



題目録



いろは分るる一冊

いさごよみ 今 日

今あると九 入れて足す 日

ろくよ居て 踏次かち 日

あけりて十、六 節に 日

はやくを 読されぬ 日

はんありと十、 けがり 日

はゆるきて ちあやのに 日

はさみたり にぎやかよ 日

にこくや にきばーい 日

三何又嫁つて 十三、 廿房も 日
 にくてはしい 十四、 ほとまりと 日
 ほし家げよ 十五、 細打川て 日
 ほつてくせ 日 ぶつてて 日
 勢くから 十六、 へそそらう 日
 べつてくに 日 返りして 十七、
 別 恨 日 三川より堂 日
 そりふくひ 日 ざうせつア 十八、
 そび河がり 日 ちちくも 日
 せちうからも 日 せむかろ 十九、
 ちよあんと 日 道あても 日
 ちんとく 日 ちいさうに 日

ちと 日 ちがハさぬ 廿、
 リつを 日 ちがハさぬ 廿、
 さん 日 ぬつ 日
 ぬま 日 ぬま 日
 ぬけそら 日 ぬらら 日
 ぬれ 日 ぬれ 日
 るい 日 流 日
 ぬ 日 ぬ 日
 をが 日 ぬ 日
 おーい 日 ぬ 日
 ぬひ 日 ぬ 日
 帯を 日 ぬ 日

長たらく 四十一

かんぼども 日

なほいそろあ 日

中にある 四十二

何れども 日

楽ぢやぞく 日

らちもかい 日

らくくし 四十三

むごいり 日

むりいりて 日

むいぞく 四十四

むつろい 日

むりむら 日

むれーから 日

うるうら 日

おておけ 四十五

うせろく 日

うつまりと 日

うらく 日

うてまに 四十六

うらでも 日

の川まると 日

のそあんご 日

後く 四十七

のふり 日

の海 日

のぞくまい 日

のらく 四十八

のせろく 日

くま 日

園ちりて 日

吟 日

はろどに 日

くさぶれ 日

くまくと 日

くいはいて 日

やさしいか 日

やつらあに 日

やかま 日

宿 日

やうさ 日

やま 日

やま 日

やま 日

やせか 日

まろろあ 日

まぶか 日

まらあて 日

ききまがよい 六十九 元が あつ く 日

ゆく く と 日 解 く 七十

ゆめ あ れ 日 ゆ ん り あ 日

ゆ さ あ 日 操 入 く 七十二

ゆ き う 日 め つ き り 日

眼 め が 合 り め 七十二 眼 め が さ め て 日

めで う れ 日 め ん う な 日

め い く に 七十二 め が で ます 日

み が き り 日 見 合 し 日

足 ち く か く 七十四 み ふ な 日

足 て ら あ 日 足 の 志 日

見 身 て り 七十五 志 い が り 日

仕 く こ い な 日 仕 ま さ く 七十五

志 め り り 日 志 は り 日

仕 整 て 日 志 の り と 七十七

お ん ち う 日 お ん ち 日

撰 く く 七十八 撰 く 日

ひ や く と 日 ひ ぬ く 日

引 く 日 ひ つ 日

ひ ろ ち 日 一 さ 日

引 く 日 持 ち 日

持 ち 日 も つ 日

も れ 日 持 ち 日

喉 て 日 も ち 日

せりーない 八十二 せじがたの 八十三
 せまふぬり 日 せんぐりに 日
 是非がたの 八十四 すぐく 日
 すくめられ 日 ぶき 八十五
 すかえん 日 製ぬのく 日
 すれく 日 推帯 日
 すつ 日

題目録

浪蒼園田菽風選
 新撰のきりきり
 冠附

浪蒼園田菽風選

震 きん び び け け 加 か 一 一 由 由 多 多
 和 わ 煉 れん の の 種 しゆ 見 見 也 也 報 報
 生 せい 綱 きやう ち ち 祈 いのち 市 いち ち ち 祈 いのち
 小 こ 竹 たけ 工 こう 足 あし 七 しち 風 ふう 神 かみ 理 り
 風 ふう 呂 りよ の の 入 いり 換 かへ ち ち 江 え 戸 と 披 ひ 婦 ふ
 出 で 立 た ち ち も も 場 ば ち ち な な 狩 かり 乃 の 供 く

いさくらて

手の葉はる 燕つばな花
 蝶は舞ふふとも追ひ
 紅酔るさす言乃依
 流うちこんど寺の庭
 手の雪ふくひ借り思相
 妾乃抱くは片りり 猫
 狹子に恋の阿名仲居
 和桶這ふ蔓もくく 妾
 一二里おがり通し 妾

手に香れ残る山彦歌

今宵かと

念佛のゆ原家樹葉
 空治うら林のまきさ
 蝶のめつふ一を性
 言ふても買う大法事
 入してんく
 曲舞の癡なまか
 かりとま懐かた持病後
 河原又支振く 妾

ろくよ居て

蘇我 成らやとて 角力取
桑原く思つても ちる子孫
其れよ来るとんぬ 俗父
吟ども 花柳の軒

踏次からち

いふ 蘇我の眼も 御忌系り
志のふ事 吟ぶ 妻の母
戀んぬの身も 壺の流
らん 風れ来る 大工 漢

露殿して

進め 山城を守 孝子
故郷 詠る ふうい 流
女をかりが ふうい 妻
義理の母 うつ 交出き守

六角よ

下 思が 居森の 蚊帳 舞ふ
よ 際き れの な 瓜の 皮
仕 ぢー て 賣る 飯 箱
運 へ け け る 誰の 出

はやくと

同座から来る揚のあ
か—ハ伊達に物と扱
湯屋の湯く阿る文日
芝居見よ新藤あは
堂渡紙書る大藤作
孝此おくれと書燈籠
放ささぬ
供のあおぬる雲
流紋の舟と急あふも

新ぐ折—橋の
困人城ヤウ川大
さ川うけ入吹く橋の上
ふとい燈後で香遠ふし
けんありと

江ノ乃まき立ッ地席帽子
我も上そのの辯理人
春雨に糸かへて強く
葉が踏仕乃碎さるし
撥—さし出まき者始

八十一

まづーんを

風は吹くころちにそ尾
母おりの出す鮫の汁
一夜ぐ際乃て下見
帯ふもぬと救仁あ

を中や来て

待合にまご 竹幕
あはれぬとかぎり松
海と射乃てぬ使を
螢はーきう治の里

はなやりに

白りおぬぬ侍勢まのり
おれれあふえり入
娘とてそる 蝶おを町
こざと隣ふかげがー

たまみりり

提灯おくすこー船
元ぶんまがれと病より
櫓おむすい 製鮓
手巾あまのよにまる 銀杏

にぎみのふ

八十二

身不整る 老夫婦

白髪 くるる 神前白

買人も強く去ぬ 担が

候 心ろてぬる 大工 傍

仲居も送る 猪鬃 舁

ふこくせ

何れくわる 茶み 煉

あれて 疾る とい 男

毒 忌 煮く 居る 新

万 赴かろ 女我 引合 吏

女房 ヲ 厄 する 帯の 階

聖域 見 延る 海 びし

ふぎハハ

送ふ 丸 せける 御 籠 解

中 せし 日 の ふい 茶屋 討

隠 居も 碎く ころ 川 岸 白

溪 側へ くるる 二人 連

役 者か せし 香具 店

花 見る 人乃 邪 六 人

荷小ぬて

立身成仕と申風々子
乃連くゆす蓄板味噌
茶店ちやせの敷くうまる 松
と申小毎當喰ふらぶつ
院いんかゝ捨る 饅頭まんじゅう石

女房も

曲端くろたんふるる日とあてんぢる
今いま一軒けんゆす揚弓店やうきうてん
新あたらまゝゆる家子の下したさ

野瀬のせくわる 馬屋町

むんちむんち茶ちやの和橋茶屋

もう欺だまされぬくしひ 謙

十露盤じゅうろばん成なりをく佐野さの也や控

憎てらう

池いけの甚しん中ちゆう死しぶ 虫むし

性せい振ぬくわてあまるかき後あとの

あると去いぬを酒さけのり

乞食こじきのあぬ飯いかうた

ほろりあはれ

捨^{ひのき}りおとく九^こが^{あは}ら
使^たり^いえに^に勅^{ちく}る^つ
と^まや^あ女^に房^ふを^とら^おま^ま
出^いて^あく^り花^{はな}乃^の花^{はな}
扱^あの^あ扱^ある^る線^{せん}香^{かう}敷^敷
十^じと^と魚^いの^の阿^ある^る針^{はり}仕^し業^{ぎょう}
巻^まり^れく^くあ^ある^る妻^{つま}此^こ夏^{なつ}
佛^{ほとけ}の^のあ^あい^い堂^{どう}よ^よあ^あら^らん
儼^{げん}然^{ぜん}と^とあ^あら^らん

ないあがよ

妻^{つま}も^も見^みえ^える^る女^に人^{ひと}堂^{どう}
了^{りょう}然^{ぜん}と^とあ^あら^らん
乃^のう^うら^らぬ^ぬで^で去^さぬ^ぬあ^あら^らん
氏^{うぢ}士^しの^のあ^あら^らん
ほ^ほろ^ろり^り
後^{のち}乃^{のち}あ^あら^らん
脚^{あし}あ^あら^らん
ひ^ひろ^ろり^り
子^こに^にあ^あら^らん
子^こに^にあ^あら^らん
子^こに^にあ^あら^らん



廣い
よも
よも
よも
よも

聖くま
へき下

はらへく

記念もよめる針仕事
第ノ極どけと母の用
勤るうらに絶えぬ
枕ぐ胎輝とよる後家

るあ

箆の遠くさ橋
殿人おら守勢
礎大根のむも侍人
弘お銀よ 深く深

鏡城 吟さか

夏葉のさる 漢秋
蒼お枝葉く 傘
幽乃不見家 志

方くから

聲さかりへの集る有
玄鳳の徳る 加増の日
鏡此せハハの星 年
納豆さりよ女 祝
お葉湯そある 辻地 露

へごそりり

抱板たき 嚙かふ 金きん 葉は 動どう

舞まい の 穢せ お 新あら 此こ 母はは

波なみ 日ひ よ ころ び 湯ゆ たう 御ご 所ところ

家か 具ぐ に 引ひ ささ 衣え 袢たもと 裏うら 衣え 状じょう

知ち り 夾くわ き 足あし 是こゝ 夫の の 下した け ぢ ぢ

口くち 下した 西せい 行ゆき 如ごと 女にょ 丈ぢょう

書つ が 藤ふじ 葉は 敷しき 聖せい の 間ま

敷しき と 中ちゆう の 女にょ あり

遊あそ ぶ

いんぎんお成るうーる常

黙もく 人にん 成な 成な を 呉ご 後ご 店た

まをたつき歩あ 歩あ 舞ま 舞ま 女にょ

まぐわさくまぬ二軒系けんけい 屋や

老らう 人にん ぞん 何なに る 丈ぢょう の 娘むすめ

片かた 敷しき で 嚙か も 帽ぼう 子こ とる

勝かち く ちういん で 奏そう 楽がく 者しや

情じやう け 抱た 寄よ 所ところ 敷しき 入いり

そのくりに

鏡を分ける 倉あり

甫る 母も口を

小龍かきむく 親仁

家男を聖

取ふ

雪よきとんとお

脊るが物と

枝くみみの

似もあま

いそぎ

唇と

はま

撮

さび

飛より

辭甫

帯

後

舌

とらへて

内若くは一はあつて
きんぐんのころいね織り
新しきよきいろはあか

かろせ

解ぬ凍心に涼と
同ゆるむらけ 露もどり
もが物成りし沖乃船
露くくをたり服よ露れ
露くくを押し名あ

微よ居りてん川うさ
新しき乃きひ雪の筆
口のおもひい 云 舞
すしと題ひれ 孫の美
あれるひれ川 起

きひうら

上種よ根問も家如房
新しき新のきく来る 舞
新しきの主の美へ居る 舞
新しき新すも 舞ひれ 舞

ちろありと

撫神あつこも海嶽
せりぬき足してんる
襦袢ぐけむるありた
隈隈よつふふさ下女
早下花踊りの足

近あても

父の氣あつて尻かげ
ひよりとけぬあは情
湖あぬたの

ちろこよ実つて見ると
糸の袖をけぬて天送者

ちろとつて

海酒の酔れよるあ
凡夫、病家病あがり
はく、病る風俗の内
流りのうめる海堂のあ
一医者があつて一夜
大船をるあやう
茶も合つて在の寺

念流し

母より父の氣は叶ひ
鬢より鬢か 髪く 髪
せん 髪から 去ぬ 小豆治
強父の氣は 髪から 髪

あふりに

氣を おもしろう 抱きぬ
曠息 杖かき 塚の 弟系
髪を かきぬ 髪と 髪
髪 髪 髪 髪 髪 髪

短くしてある 大流し

月日 此れ 長ひ 云 髪

井戸の 辻 河原 新町 毎
胸の だくつく 千枝 樂

髪

ちよこ 天宗 柳 髪
髪 柳の 髪 老 女 房
髪 髪 おも 髪 髪 髪
髪 髪 髪 髪 髪 髪
小 房り 髪 髪 髪 髪

おろし魚のせ

おろし魚のせ
七色揃くくしるも
大きい魚、冷やした食
素又はゆず足かしの

海老のせ

海老のせ
我をたしむるは
上布をくわるおろし魚
海老のせ、おろし魚
海老のせ、おろし魚

海老のせ、おろし魚
外懐く切る海老のせ
海老のせ、おろし魚
海老のせ、おろし魚

おろし魚のせ

おろし魚のせ
海老のせ、おろし魚
海老のせ、おろし魚
海老のせ、おろし魚

ぬけそらな

なまはれあつる 葉履かき
挿杖を穿つくおる下見
帯よりよとのさひ人
えはほよすけるらんほほ

ぬくくさ

癒ふを妙の阿る 綴
らん傘さしてさるは子
炎のゆをアそぬ下女
款さるのゆめはら

ふもつくらよ仲人救
悪人のいゆる上細工
あしぬきも名人さ
漸考あつてあそ 逆
顔かく人の長命さ
ほれ

出巻うとらんるうた一切
乳守れ悪か 挿る苗
侍子せいくさる紋目
お菜よほくし 配る半

あまをすて

いづりぬい八方の灯
巨燈の傍は西川西
神は残るは生業
中の禊もぬき

類だげ

傍は残るぬき二ツカ
着たはこゝろるくく
とやもこふもち板
乃若くはうふ燈後店

流石

世よきよなる志美れ名
素とよ如哉書列
今更に流るる鬼す
きくぬ人へまてる事

あまのるに

浮勢く敷くる風
一汁やも流る子持
引くはく小信密語
階さしも成る加田の浦

おとあし

親のあし子に義増す
かよふあし風俗よ清く
酔ふあしのみやげ
義理をてまをす二つ

おとあし

憎ひ徳ひ徳ひ女房
火蓋乃くろよ
面下知く徳供
とあしあしあしあし

おとあし

能く去る角力
疎く浅くしてやる
笑ひくおとあし
別あし下見

おとあし

別ても人を
帰来此ゆたの
釣日よのびる

近來

夫ありひの襟、
受ちのぞもい
追つて送りの手は
悪く敷く月のお尾

乙ひの徒

縁路ゆくわる
強ゆるりお路下
中代は
涙は

押て見

額が
今文夫へ
花の
花を
帯は

帯は

大切の
呉服
涼しい
真

八七六

八七

今ヶふら

陰徳で喰ひし鯉乃汁

又幾に病む病み所がり

仕替之を 守りし虫

喰ひ花 見しわろ癒癒病

あ睡あらせぬ懐しの後

あふても

若くあたる ありきき

比しあらくわろ花の落

ちかき葉あらせぬ銀子

上彦ぐもりる 上大工

笑ひし

医者の一云 ぶよ一之

まふいごろ火をおし下女

刻しわろ癒癒病みく女房

入葉 吹きゆす火吹竹

くらいつ

隣で待も 小る物屋

藪 丸がやく 葉所

思知り此 去ぬ父の香

八七

かこ海つゝ

かめと向ふれ蓮うぶく

命かつり乃咽の疵

さくは清けら眼が海りぬ

あおはまゆるる 枯お場

夢爰の救いふ業肉若

加減して

神乃おもい懐まゝ

入舞流よ父の友

遊夜くまらる際り門全

親母も念てゐる白雪程

具かこ家

おまの神針 生 綴

鳥麿箱をあう寺の猫

あらしの口の答 流し

夫の機織を糸の妻

将ちんこ

薪四伐下りる病より

海をくれい合羽持

礼りく寒く掛広代

八世

整く来て

龍掛芝居らん家格子

公西成志のぐまうり

そのぬ懐先文と傘

後のその尾も思子器器

嘆役も家薬件居

かさふりて

子漱（紙）うげむ電り

戸とのめふさる妻と

澤ゆらめる何似者

龍をかり雨く運荷し

獲ふりて

紙子よととく嫁の孝

いづれも業たる高れ並

龍かた免さ付夫春の娘

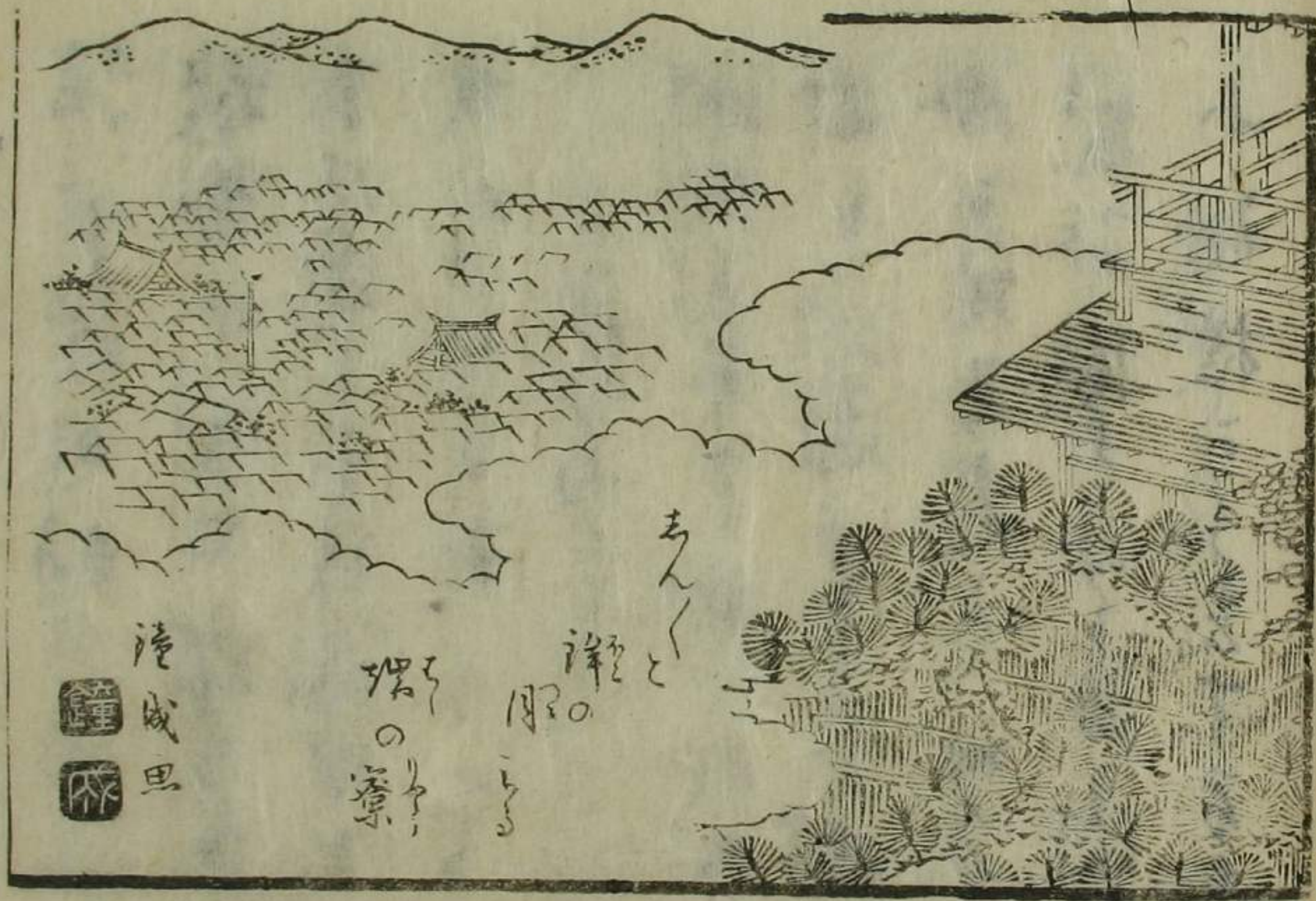
増身成ともかむ年男

かこむぬ

ひうし此尻谷二浩つ子母

山所も我打大智識

百月百目で見る銀子



ふいひ目録

花の影の隙を 軒乃下
子れ遠あまの御がり
横かさげの顔さくら

よかつく

羽帽子笑く 腕く 妓婦
児も 泣遊 さくら 篠
岸多 成る ありく 神
土 子 撫く ぬる る 居
小神 提う 去す 居

戀不つ

文も 新く 魚 柳
風 呂 妻 中 あり 一 けら 買
紗 っり 丹 々 ませ てる 海 老
忍 此 女 や げ も 持 て 痛 る
道 の よ ら れ る 女 形 花 挿

よいぞく

花 々 ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ の 礼
念 佛 一 あり あり あり あり あり
東 雲 ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ ぶ 元

夜がぬて

濃紙小刺る葉糸の
おき居のさるる太神符
指おく見家おりの堂
まぐきれまの枯さし
数干巻る巨煙の火
衝さげさるん光り
舟
用いさるるふたの書
啼く庭る葉のト女

散れちつく 雲

とぬーさうける 耕人

ふうりうんく

龍小翻り捲く 虹回屋
深はよまの身く小僧
作乃乳と解ぬるよ
怒解くかゝる短引
横糸のまりや去る馬
娘と糸よ入る中風
糸糸身も停まはる毛糸

たつりや

仲繼をすまはる封
備那都、少に現るる
あふい、義、銭、くむ、在、の、筆
溢、瀧、の、舟、り、り、乳、母
儀、乃、突、入、り、も、玉、の、囀

たいそりや

代、系、一、そ、る、孫、婿、子
か、子、子、の、少、海、る、深、き、子
出、ぬ、神、の、樂、此、處、迄、る

舞、が、つ、ら、ひ、に、立、振、舞

風、刺、あ、が、保、く、中、風、病

血、ぐ、小、紋、奈、り、に、男

病、癒、付、さ、ぐる、か、さ、れ、持

妻、か、ま、り、あ、る、像、ぬ、け、糸

大、い、ん、な

揃、揃、く、ぬ、る、酒、白

舞、此、處、に、や、家、は、な、い

ゆ、り、袖、で、消、え、煙、毫、の、灯

雨、具、も、持、ち、ぬ、も、お、お、物

たのしんぐ

紗織のつら女 紗乃舟
眠れゆくふふ 芝居の
月よ志まき 月あけ 鳥
妻成を丈にほのりよ
按摩が去ぬり 恵笑ひ

たいせ川お

奴が 提と 玉 揃
橋こころがかる 溪 伎 祀
橋りがましーく 入るる 暮

廻く氣れ 異 魁 右 丈 之

谷町 携く ちんちん 所
酔 坐 を 流 ふ 走 歩 山
送る こと 孝 家 恋 志 乃
外 副 の 吟 吟 と ぬり

たーたんで

目 見 へ 乃 氣 母 此 氣 強 ぬ
下 女 由 ち 中 ち め く の 鏡
言 じ ん 子 病 る 酔 じ 時
踏 じ 踏 じ れ る づ ぬ

礼受く

そらふ新と西舎り

根と湯森を家丁見

やぶ医の業も夜文

月夜と空を送り換

歴く志や

石の蓋押られ

片と紙と女連

眼の患ある病後

唐城うんでかる操

例又事り

起を肉とおぬ

地藏集り世話

敏くおさうする

賢く送り家

禮りあて

送り仲居たてれる

妾宅代去ぬ

踏み分けてわる

文のみやげよる

そよくさ

舞まのほる深花物

独ま成ましてのる炊

新れ務のびる 棧か造つ

若き子ま立すいる一ひ計け

居い眠ねくわる西瓜店

世あらうら

男こ比小怪いひ能ひ男

若や子い能いひ守 難く家ら

舞まひま河く 強か弱じの細

息こ子い人成見る遠い前せ

むく物い志か保ある舎己己

御お覧らんさぐら 宿ふ酒あ

知ちひま歩あ行く 病か上り

小こ磨まに高れ子徒元さ

座ま下味

舞ま舞ふ小こ返事仕て尻あ眼め

森も酒を強め久し一ぢぢり

先さ手の理を穿きく中針盆

鬼き門ん乃あ入らん日毎毎

泉 地こくふ

毫裂 宇此 日わり 虹

けつく 壺 壺の 切あさる

石史 城跡 して 有り 堂

阿い さらも 仕る 柵 経 流

妻 此 くらめ 塚 小 遺 帳

梵 妻 の 子 此 宮 中 あり

それでア

京 入 七 が て てる 空 幸 生

小 使 へ へ て 起 ぬ 母

勢 づ ぐ 去 ぬ 勢 伸 仕

軟 の 丸 体 む 洒 交 る

かい 於 け 後 も 櫛 子 志 手

地 取 又 懐 と 弟 子 此 恋

妻 此 落 年 揚 家 の 林

そい

母 此 眼 又 子 櫛 子 恋

為 さらり 燦 去 あ ぬ

喉 の 尾 筋 色 盛 り

侍 勢 残 嘆 下 見 口 士

つく福んぞ

喜劇けの後の減ぬ替世
雨成んくわる空我く氣
るも教をも家角力取
目及く此善乃里おろ
速疾又眼立つよい妙房

連 立つく

母もやぶ入を家芝居
戯しんく及く行せり如
こぞしんく此もみ健志女

船風号り 舞劇

りさされ舟のせぬ舞
看板又くみる志んき
舟年く後の減る深江
神事 納る 礼中り

ワイウキ

張走ふいこ吹く飛伝屋
志れ情をふく 悪性作
る刺のおしん竿の下
伝ヤんで待ッ 飯乃多

泣ぶしり

操成身も 夫の面

風ふ吹れくゆる仲居

懐月故よ出せ古き

留りろくろる午活の泣

隣の子 嘆ふあのみ地

月くに

割さ嫉しき控よ後家

大伴巡りの寄るゆゑ

重岩かきぬ傳を者

花屋も蔵し入孝子

仙りけを

懐光此後よにあつと

簾成丁思が突かがり

嘆息し流の寄る老

我亮成めいろさぬ懐

突張く

夕日此遠入 新巻

ながいあつたを懐り人

足はけ流家 新乃名

ぬちくを

銘座、拂子 此代

澤、那乃、白、酒、屋

出入、命、床、座

遠、か、ゆ、か、患、一

森、と、と

く、何、う、く、事、の、座

ゆ、六、提、く、去、ぬ、座

舞、踊、ふ、け、く、大、拾、い

葉、座、所、四、つ、夏、腐、賣

念、入、く

辻、追、つ、る、一、云

ふ、く、く、か、く、風、名、く

言、ひ、を、合、忘、ら、ぬ、座

婚、れ、也、の、涙、夜、忘、れ、座

福、つ、せ、り、と

歌、と、教、せん、同、女、座

澄、き、か、り、か、り、情、て、し

森、代、と、ち、よ、く、は、る、代

惚、れ、ぬ、う、り、も、る、振、又、惚

たまふかに

雷轟乃 驚くも侍人
俊り 何つとまが淋しい
仲居の意れ 何とまふ事
識さしと 驚くも合ふぬ
兎が意知り 涙 悲しい
それ都れ果る 惚さし

何遍も

父白髪 涙ぐ恨み
宗多れか 驚く人城

名のまうと 下 詠川 海

なまらぬ

涙をかきよむらうと子
くやふ 大まう 中 驚く
驚く切つくりぬ 何げ 存在
畏れは けくおく 挿 守

長なりて

途が ころあふ 才の 侍 及
増し こそ 異つといふ 恵 嫁
母ら 痛く 元が 身カ ぬ

ふんぼでも

火のりかひる清きされ
 夫乃志んきを森ぬ縁新
 惚れ人のあま家力強
 家ほくゆくと店ざし
 新々ほほも業れ化
 学いそふ
 猪より此音ぐかてぬ若多
 偶成書引にも縁談合
 何し何とあす板子掛

中よん

振治金と笑う若乃建
 勤の髪成らうと 窓
 口えうれうわるに果報
 妹乃新へことと笑え
 ふ外かあくる面ゆさ
 何夜でも
 双紙は浩りと母の髪
 産産別ちたりありぬもの
 菊堂此配も後乃嘆

らくきやなく
初^{はつ}め^て、こゝろく^く 愁^{あは}れ^け子^こ
葉^はた^たま^まな^なぬ^ぬ神^{かみ}お^おら^らり
り^りあ^あも^も出^いで^では^はし^し海^{うみ}新^{あらた}湯^ゆ
花^{はな}枝^{えだ}や^やり^りと^と 親^{おや}
丈^は婦^にい^いと^とく^くお^お刺^さ刀^{やいば}
峠^{たけ}成^{なり}越^こし^しと^と二^に人^{にん}連^{れん}
ら^らち^ちも^もあ^あい^い
毒^{どく}の^の目^めを^を残^{のこ}し^し牛^{うし}一^{ひと}頭^{あたま}
に^に詰^めれ^れ揉^もみ^み入^い蓮^{れん}蔞^{ぼん}

峠^{たけ}は^はく^くら^らり^りと^と葉^はら^らん^ん代^{だい}
浮^う舟^{ふね}の^の影^{かげ}を^をけ^けあ^あり^りを^をか^かに^に
夏^{なつ}の^の命^{いのち}い^い夏^{なつ}乃^の札^{しるし}
実^{まこと}立^たて^ても^も一^{ひと}さ^さかり^{かり}
幽^{ゆう}揚^{りやう}乃^の羨^{うらやま}れ^れと^とあ^ある^る今^{いま}
来^きく^くや^や
峯^{たけ}あ^あら^らう^うと^とま^まて^て峯^{たけ}嫁^{よめ}給^{たま}ひ^ひ
引^ひき^き世^よ成^{なり}て^てる^る車^{くるま}月^{つき}啼^なん^ん
あ^あら^ら我^{われ}ま^まさ^さぐ^ぐと^とあ^あら^ら女^{むすめ}夫^{つま}
ハ^ハ慥^{たしか}小^こ引^ひて^てあ^ある^る みかど

むいひる

聲毛 海女 親に 見せ
僕を 雨の 中で ぬらぬ 葉
人を 双紙 2枚 縁に 医者
子供 2人 やくう あり 好
むいひる

我も ちかあさき だけ
一すい 綴り くるる 盤
あはれ 津あき せも 仲居
惚ろ ちりり 片あさき

行目 行か ぐいさ 角力
拂ひ ぎる ぐいさ あり
可き され 増ん 惚ろ 中
信向に 藤原 折 雙実
ちぢりの 深あ あり 二階
赤ひ ぞく

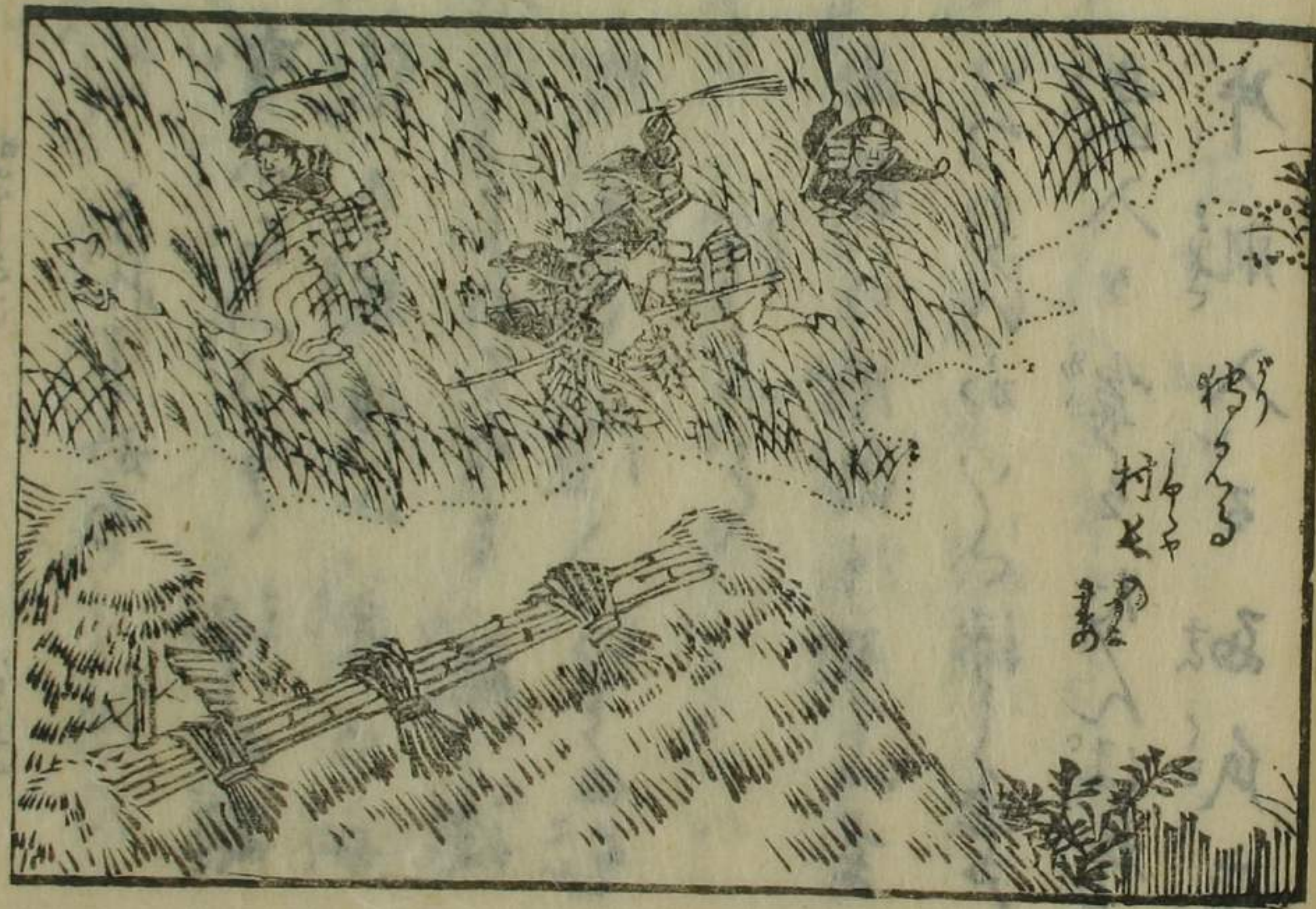
白子 見く なる 海女
振か ぐいさ あり 子
有 雨 消して 赤る 好
丹 ちぢり 好る 母

むつろし

今此親乃 毒小あ
又字生と店友の床
風入すてと武士
琴のある 在乃 始
仮名こりて色かつとせい
色やうふてゆるきりて給
深海にこれ 野、あ
兼子小あつんそく色相者
菴の智恵かる 小百姓

むつろし

月乃 親
伏魔おろし 裸武者
心中をさす 猿やうと
かんご一伐やる 悪志く
衣とさんど 扇の片
花折くわる かな親
鬼斬とも に 吸あて
あんどーがけ 勝負
おしと牡丹乃 侍又揃



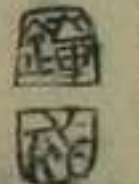
物
り
村
長
あ
ま



よ
ん
き
り
標

か
ら
く
こ

四
十五
分



うれしから

賀ふあづろや 柳ろ敷

徳乃猿橋よ 妾の母

あつたれてある 敵没

憎みどく 門へ けしき

浮きく

曲搦の風俗も野あま

いつたふいかいよ 海へ忠

業入る 業とたんほ提

片肌入る 鮎氏店

坊ておけ

あんと花の字やケと娘

供乃下見哉 皆起せ

連くもいづる 遊人ども

身小ぬ人の 歌のさあ

うきく

様敷のうしろ 思ふるま

敷の下りく 音たのま

西州かえ入る 行く節

おも 別際さるど 巻

く川まると

聲の祝でもあいな歌

うさりれく番く決をふい

内町まられ川は穉

うかくせ

標ゆいり 穉も鳴る

ふ形着く善子持連

たがいよ 鹿たたく

きふきく 辻敷下

うされよれるたふら

うさてきに

帝幸ゆふせく 鹿あ

身を控くわるふい後家

疎皮ふまぐる 鹿祈

かんやう一城一て見去を

藝子と余ふえもる茶屋

うせよでも

けーうあられく裁ちぐ

相見て 鹿の 鹿

だらまけ減らす老女房

の何れもりせ

撫^ナま^ユる^ル家^カも春^ハ乃^ノ花^ハ
花^ハ乃^ノ花^ハの^ノ花^ハ乃^ノ花^ハ
花^ハ乃^ノ花^ハの^ノ花^ハ乃^ノ花^ハ
花^ハ乃^ノ花^ハの^ノ花^ハ乃^ノ花^ハ

春^ハ乃^ノ花^ハ

花^ハ乃^ノ花^ハの^ノ花^ハ乃^ノ花^ハ
花^ハ乃^ノ花^ハの^ノ花^ハ乃^ノ花^ハ
花^ハ乃^ノ花^ハの^ノ花^ハ乃^ノ花^ハ
花^ハ乃^ノ花^ハの^ノ花^ハ乃^ノ花^ハ

のちくま

花^ハ乃^ノ花^ハの^ノ花^ハ乃^ノ花^ハ
花^ハ乃^ノ花^ハの^ノ花^ハ乃^ノ花^ハ
花^ハ乃^ノ花^ハの^ノ花^ハ乃^ノ花^ハ
花^ハ乃^ノ花^ハの^ノ花^ハ乃^ノ花^ハ

残^ノ多^クハ

花^ハ乃^ノ花^ハの^ノ花^ハ乃^ノ花^ハ
花^ハ乃^ノ花^ハの^ノ花^ハ乃^ノ花^ハ
花^ハ乃^ノ花^ハの^ノ花^ハ乃^ノ花^ハ
花^ハ乃^ノ花^ハの^ノ花^ハ乃^ノ花^ハ

の海しり

海女や川くやる下見
ちよこく〜飛く見る三里
いせう〜なる船大工
回も睦もやる両合を

豊くすい

豊くすい
のちやりお後家おきや
福をたい〜あるお福
遠出するはも風名野
幕〜う〜所るお家野

のらくせ

のらくせ
う〜海のお〜災界
風邪と引ぬぐ常〜
吳名乃年〜こ〜ひ猪
〜〜もま〜る有る有

のせうれて

のせうれて
煙り掃〜吹く掃角力
鬼小く〜〜がる〜
あて名かく〜〜だけ安城
〜〜〜れ〜〜入らぬ〜

四ッ橋ぐ 糞 丸 糸
 工合の ころい 門く 嚙
 まい 年 法 ぶ 魚 新 橋
 盡 ころ づ ち 家 仲 人
 ま げ ぶ ま れ と 油 の 綴
 權 ころ ころ ころ ころ ころ
 糸 引 ころ 糸 引 人
 所 謀 破 場 竹 田 尺 金
 魚 ころ ころ 糸 引 人

境 ころ 糸 引 人
 ぶ ころ ころ 糸 引 人
 店 乃 販 ぶ 糸 引 人
 較 懈 糸 引 人
 辻 堂 糸 引 人
 産 棚 の 内 ぶ 糸 引 人
 糸 引 人 糸 引 人
 糸 引 人 糸 引 人

くちやど
小

八五十一

親がよづらう入法とむん成
洞乃部りがる大^お丸^ま瓜^い
^い瓜^いの^ない^い 法^は會^え立^た
強^きあ^を切^きく^おる^る 鏡^ま

系^{けい}神^{しん}く

聖^{せい}子^しとある法^はく^くし
蓋^{ふた}もち^ち阿^あけ^け流^{りゅう}お^おか^か多^たと
嫁^{よめ}の^は法^はある^る父^{ちち}の^の釋^{しやく}
芝^し居^いの^のし^し出^でる^るお^おま^まの^の所^{しよ}

くちやど

そ^そ尾^び枝^え法^はふ^ふの^の志^しお^おは^は一^一
嫁^{よめ}か^かて^てか^か祈^{いの}る^る船^{ふね}も^もあ
渡^{わた}る^るを^をぬ^ぬお^おさ^され
涼^{すず}る^るし^しく^くを^をぬ^ぬ物^{もの}れ^れ人^{ひと}

くちやど

け^けつ^つく^く室^{むろ}探^{たん}ひ^ひ病^{びょう}の^のつ^つり
虫^{むし}か^かあ^ある^るし^しも^も写^{しゃ}し^し物^{もの}
後^{のち}お^おか^か出^でる^るし^し棚^{たな}多^た店^{みせ}
踏^ふ人^{ひと}を^をる^るの^の縁^{えん}の^の風^{ふう}俗^{ぶく}

⑤

八五十一

やまーいな

鬼澤おがむ角力取
新嫂もはんど日づら
みやげもらふる 食ら
小船銭神子百目猫

やうらうら

惚人かゝるまゝ 振舞
理をもつゝいふ 役
子活の仕つけもた文之
御堂もはく 男

やうらうら

緋澤れ儀 舞
惠店 二日 舞
花乃るるを 薙 残 田
余所れ 終子 といふ

音 きて

話 女 同 七
中 時 へ 魚 介 京 の 虫
替 身 常 又 行 く 如 神 子
井 戸 へ 入 れ 入 る 女 丈 連

おりのまゝ

第勢のよい 張糸 海

恋もさああん 江戸の町

大船の瓦 海郷が 某

瀬のそらあ〜 何と 田植

休まらん

あ〜は〜は〜 搦手 是

二人おある 大工 日庵

娘と 家懐て 行 守る

神 意い 叶よ 史の 紀

ヤレ 娘

中法と 丈夫の 子 鼓 解

知 搦 何と 〱 肌 ぬら

やうと 舟 出る 角力 取

家 ひと 心 〱 〱 娘 乃 言

物 子 聞 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱

矢 〱 〱 〱

名 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱

三里 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱

繪 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱 〱

交かへし

あやうぶがす 風名の中

てア、山とみりや 乳母が聖

孫とどめ時 咄摺とどめ

糊の樽やうも 世常の訓

ま何恵に

ありくうごく 梨の志ん

新り、脊中、函とどく

新、ちろれ、菜、猫

日やけ乃 眠くら 晒、賣

すごかふ

月、行かく 梧、撰

智のともいで 女、日、行

撰、新くおく 康乃 盤

仲居のりそぬ 派、有

ア、遠、あて

涼、見て来と 菜、提、灯

徳、利、く、うも 板、河、婆

身、揚、ま、け、を 心、心、状

境、の、居、る 料、理、人

あまのいし

歌に詠ふ有る事

懐く憂ひ捨くしぬ女婦

忠へ出くわるる身命持

香多座たくく詠ふ

解きくやる清く人

悪魔らうの中獅子漢

花畑へ行く有る事

急ぐ身は懐く十二羽

又しても

歌に詠ふ有る事

一撮のよる懐く乃上

どれ合女房泣て来る

二字成忘る事又老毛

きぬる事傳ふ恋あはれ

またあはれ

名成虫くわるる事

容きく事懐く事

けつくふい

新宅又穿く 離れ殿

喚き響に意地れをくはる

書出の集と云二の中

破通いそく 今見れば

今見れば

磯と系履尻がやい

叶くくられと休え焼

をんたらしい都の骨

女房よりくこりて系

を丈よきけと音のす

系舟にがやく風の神

けんもろろ

遊人我去すかくん人

おさき向て居るはト穴

毛羽の囀を裁いと驚

あかく座をぬるびき割

物来知あく夜食喰ふ

系石よりくわら花

清多よりく花むさあ

遊揚ちの巻

妻も夜あひまきる下
君ぬりよ憂も暮乃
姑の棒でささぬ丈
君はげらよもこのるま

らおも又

忍かつる丈乃 顔なが先
系の極ととふいたとく
何ト一及行くらふよ
鏡 名 鏡 考 二 涙

志うられてさぬ 賣 上 子
基ようち死の 軀 月 雨
くごさのくわる ようゆ
おしーろさうと おや海
時 風 が ぬ ら 室 乃 忠
庭 腐 よ こ ころ 末 ぬ け
けーかぬ

妻 ハーカろとおひか
大の割 飛 うよ 赤く 影
産 産 皮 むく 毛 の 物

あつさゝあ

親^{おや}病^{びやう}むしる風^{かぜ}をよ

後^{のち}即^{すなは}ち見^みゆるまよか

親^{おや}のどつてのる新^{あたら}

寺^{てら}のりれてのる大^{おほ}和^わ田^{でん}

あつさゝあ

かゝるひ妻^{つま}あれまおひ

千^ち活^{くわ}成^{じやう}鳴^なむたたら

天^{あま}井^いちかめて新^{あたら}

後^{のち}の薬^{くすり}をく傳^{つた}へ者の^{もの}新^{あたら}

蓋^{かぶ}をぬく

春^{はる}の終^{はつ}見^みるかみみ

小^こ僧^{そう}成^{じやう}志^しる中^{なか}の魚^{うま}腐^{くさ}

衆^{しゆ}ふきりて入^いる陰^{かげ}の指^{さし}

如^{ごと}く八百^{はちひやく}のいふ世^よ活^{くわ}

後^{のち}のりれてのる香^{かぐ}臭^{くさ}臭^{くさ}

あつさゝあ

あつさゝあ

あつさゝあ

あつさゝあ

ぶらり

あいのまれせく内勤
春乃纏ひかー切
娘が元をじし挿るめ葉
沢のわらせぬウラヤ

ふと切ッ

嵐れらまよ詰乃猿
わろんと乳母のいも
鈴葉お行く神居
およれ鳴る羽へ恋

澄かり

婚あはる髪のうさ
安あまあつさ 籍の足
丁思成あたる 照菴
そらぬ憂癒くひらさる
去る元とあひ言

姉のかつて

二人く癖ふ母の孫
あーあ冷ふさうあ者
ろをろへらめる 穢

家づくし

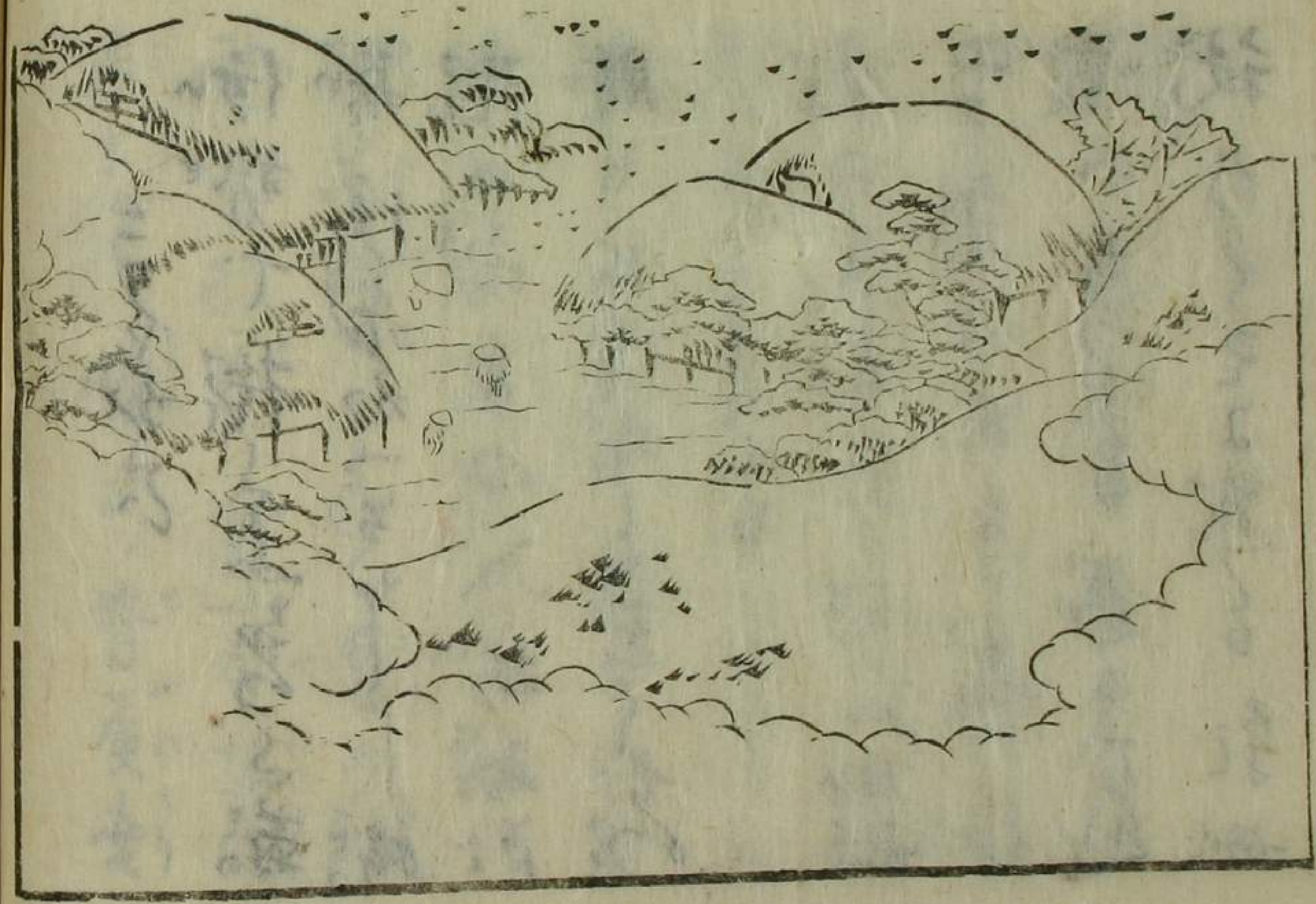
供も嘆き見る見合行
比真小あつく度る伝
鞭の布をさるる儼糸
采おこあいよせぬ力き
はより此翁乃菜このみ
仲居が羽根をつく鞠坊
破生垣くまゆく雪の相
形るれらに合ふ笑拵舞
糸糸く嘆乃脊負妻

ニリヤかひ

伊勢で撥くふあつと暮
居住かつるやう一膳
老の岡まぬ入栴雨戸
腫もある巻く巻く巻く

まいしらるる

夫のああに同お目お
ニッ守にある海
壑小あつるる巻るる巻
杖乃くそよあつるる乳母



一ツツハカ杯

新語乃吏、蘇くぬ夜
 荒鐘、甲小位、女中
 侍女、あつる、吏、ハ、眼
 婿、うけりや、薄く、晒、の花
 舞、一、よ、れ、き、く、探
 琴、の、妙、不、名、流、志、の、氏、丈
 髪、切、く、笑、て、借、る、小、夜、差
 小、玉、を、眼、の、涙、あ、ら、ハ
 悲、れ、多、情、小、酒、助、も

子に啼られ、樹、ハ、樹
 小玉も、廻、し、て、素、ら、さ
 子、く、舞、臺、形、お、志、あ、ん、樹
 侍、女、は、れ、く、同、小、撮、至
 孫、の、子、に、あ、る、長、小、反
 巨、爐、ハ、解、つ、る、る、こ、じ
 子、子、寺、ハ、茂、さ、ん、伸、士
 あ、ろ、ろ、う、ふ、入、る、こ、こ、い、揃
 髪、切、出、し、ける、本、懐、白
 念、佛、を、止、く、娘、味、家

よはしうふ

お仕舞の成もる史の多討
遊舞へ出す辨理人
舞んぞよへかこぬり
舞がかりる極さうと
とりもちのさす竹のさき
帳するのも店乃侍遊
又へさげうへ喃あ
舞をむきべと又主侍
舞成遊へ湯屋出る

手に身て

柳子小糸小葉屋の葉
子猫が吼る葉子のお給
下女が眼さすそ葉
櫻窓く見る仲士

出か祈ます

世帯大るゆに老る葉
工合のころん振歩窓
舞人のさうぬのり合亦
姑とりよ歌あり

出て見れば

右支が寒の初れと桶

駮を中とりぬ馬

厚川をり葉にききよあけ

手袋枕

枕敷乃寒う新乃窟

引籠に足す我むう

ぬえのおそい佐まつり

今ふまきく来と新艘

波端、ひぞろ酒とらま

手付く

松金をめるおま乃連

こがおま成る寺屋

ひろくま燦と来る丸之

渡りぬにま原莖葉

撲と葉一と女

とまき

園取ぬあぐおくるる

登る啼斬のわいの亀

流儀りに来る田工人

このちがある

泥坊に掛はるくは

新れ丸どわる古狸

競りあまの緩を喰

世帯れくろむ老女房

口占乃座の意地つさ

新かど老ぬ湯田留

あけ、おき

音にたると音の亭

新かど老ぬ湯田留

笑に外敷河を掛子

走乃猫舌新小

牧小を信のあいハ新

隠居成行くわる上座

あけ、おき

素史やゆく三日の海

二人りかゝる折子

辻もくもる早作

尻持よる演歌

口占をゆくうとんの音

穴ヶある

唐むらゝいぢり 漢 びん

書に びん びん

悉 びん おとす さうらうと

漢 びん びん びん

誰 びん びん びん

多 びん びん びん

阿 びん びん

培 茶 びん びん びん

曰 びん びん びん

乳 びん びん びん

床 びん びん びん

粧 業 びん びん びん

軟 びん びん びん

乃 びん びん びん

乳 母 びん びん びん

伯 母 びん びん びん

う びん びん びん

その びん びん びん

八十五

八十五

さハレド

撥ちし借りにもくんと
孫抱よ来と八の丸
目柄たぐひく傘たろす
きん汁は替く替此替

さやい

ひりどかち撥ふさくし
酒芳よやも 率既福
あつさる後同小料人
替既同小大あ替

さびし

髪は思ひ流るる
元が子してみる
うさむいさつがす
替が替く坊ぬ

さりち

荷骨柳ふくる
松んでらせぬ
申あつねど
一皮の替く大松子

さーいで

水揚仕ふふ家あひび
鬼をけけぬ 乃に
花見もり此非雲の根
眼よゆふんあはる

さてもア

峯家の菜の子にも
笑と成んる 紙の灯
酒ふみ腕に丈又
家家に流る 幾時遊人

曲梅乃ふ入 又ちぐる

さるとてら

涇吃らーと 麻乃声
夏の粉つむ 妾の母
あちー、麻返り 織
風梅く 母れ小ちやん
子精ふあはる 樹夫相

さるて

母へ元かみれあわみ
傍目かきする 西照菴

きんぎょ

長子おおぐりる 神宮月
 鏡人おある 古表具
 桜枝干る此あい仲人
 のうまんれそろふ 坂浩康
 海よりれく 居る 香
 蓋枝出も 枝本屋
 櫻木のちびる下女角
 お藤百枝えよさッ 仲吉
 論も菓トくく名も揚屋

新味ころよ

総て見りや似合お後の書
 葵理心一撰 吟よ 名古屋
 隈の一本 落す 空あ
 幸ぐおやまこれよがけお
 まさこせく
 纏乃おうぐ 本換 池み家
 卯れを新くを仕る二人
 櫻ぐ庭をく 表たら
 新枝よりきしておぬ水屋

園を遊

登りおやあやとりをたむる子
おぼれぬ調子松子も出る
及古隣り成中あがるあ
たむらよりのとくさく謙

きりーくあ

親のあやとり奉公せん
登り登り見下りくむさめ
入梅成葉下で居る新戸
敷入りの成 軟がさる

新味かよん

登りけりも喰ふかきん 蛙
掘るの田舎戸で居る
井戸場ぐくけさあちん
猫取り捨る 築 築
仲居 碎しき美角力
丸が交て

合美し乳母志うら
登りくかひせぬ 寄
隣りの成 園るうら

泣く

松も休まらぬ 何れも
 母も泣くべし 阿の おやほ
 りにまらぬ 丁児をさう
 才れ 寝ておる 下忍
 どの身もぬ お乳の人
 御子 泣くいそふを 一と
 涙して 泣く人 引ける
 つりりして 有 おあふん
 藜 古すし 長が 毒

雪解く

酒造 うら 奇ぬ 荒男
 軒く 首解 巾く 彦
 川の音 少ぞ 春立ち ぬ
 他人乃 息も 足る 後

羨にふれ

妻の 寝て 寝て べらぬ
 朝 就 寝て 入る 丁児
 夜 遠が 解つて 床が 鳴る
 喉が 鳴る 心 中 宿

おどんあま

吾に傳ふ哉 明テと西州
 湯く河く先る 盛るの
 汝を母と遊子 藤原
 父の爲主も系 率
 聖よりれい 海と甲斐
 湯屋も眼乃 魚子母
 新河より
 松く印く 登り ぬ子
 親乃名い 言 ちひ 出 也

治ぐまれ年く 産戸のあ

指入く

新トくまが 糸 越 する
 極 残 くる けく 明 湯 原
 錦く 境 幾 けり くの
 塩 味 と なる 目 悪 突
 けき 悪く
 ともれ 産 産く 源 塩 菜
 隠 女 屋 かく 出る ぞ 小 ち 妻
 城 今く 藤 原 大 娘

めつさりせ

村中惚さす糸の糸

巻くも妻れ 志願さ

ふすまを せらで突くむきめ

ゆえに襦で巻る舞ふお

禿 枝 連よせぬ 禿

八幡の乃どく巻ふ竹馬

お織をわりの 衣 文

啼糸れ丈よ妻も伊達

老乃 ぞん ぞん ぞん

眼が命ぬ

先に入して河を望の望

史 法 巻よ 増も不便

めつさり中れい女ま

さす 漢 強をい

眼がさめて

種さくさぬ髪にのみ

起 捲もまごあける世

山 葵よ 度 泥まけお

鼻ぬ妻 起す 碎あさま

目あさくれ

傾城れ名もは産路

戸せらちりる玉かじ

櫛多あと何る葉の葉

髪揺ぐ 酔さや

めんまか

悠に業トて 入る 禱

夫成 立も 神かへ

鬼おと 豆一と 葉ぬ 柳

煙り 藤子 吹く 起と 葉

深くは

地爐 五斗く 誠世 黙

野の ぬく けれあい 除者

まらちの 起向 文より

佐も 若か 家 遊忌の 庭

牡丹 不ど ぎく 八文字

めが 出ます

遠おが 勢所と 衝 葛甲

初く 勢成 ぎく 源 新 勢

三井の 通 入る 文

三井
みぎきり

男に仕る 杖とこ
鞍 瀟の ちやる 佛具
赤い ちやる 糸屋の 篋
罫 突き 毛 朋 玉

見合して

風 吹く 有り 心 ぬら 袋
りれ 2 飽 いる 鏡 くら
二 度 2 出 くり 月 夜 新
大 衣 大 2 酔 ぶ くら 西 雲

兄 さん へ 書 ぐ

弟 小 も 思 へ ぬ 喉 び 海
仲 人 が 一 月 2 春 む 南 洲
評 判 を みる 巻 替 古
手 ぎ へ ち ぶ ち ず 取 印 作

皆 為 志 也

口 へ ち 遠 け ち ー ち 新
堰 も 物 家 甲 斐 だ ち ー
節 成 ち なる 小 じ ち ち ち
柳 ち ち 去 ち 初 奉 云

見て囃ふ

休父、外傳の店や色

葛蒲刀ぐまこあや

泥が織と 葛梅子

新子、唄 云々と素

見りおきく

玄冥ゆるりと車下

花見きよは 花見は

わらびいづく 牽子

白ひ 踏とく 菜店

傘の勢んど揚屋町

水散の及ぬうし北山

取よおきる 七合入

話えをが免年を同ふ

見きま下

真うら 囃ふぬ 揚の意

人よ知るさぬ 縁 御り

そのまにちうぬ糸屋下女

たういよ色む 加田の浦

まごさうされぬ百目 猫



志どがたい

何つゝと後ぬれとせむ

あ交のよみ 夢仲長

隣姑のる 女と

笑取にぬる 影ひやう

仕て来いふ

おとろと笑女と 擧遠ふ

おとれかつゝと下女が乾

擧乃あ方ふ 強ゆるふ

根回ひとあこれ汁は

文夫さく

祝使乃 泣残る 涙

四ふらわいおる 實れ 新妻

主の 腕も 世も 二層

実ツが 志しけと 叙の け

職を ちりちり して ぬる 涙仕

日 拂たより くの なる 山

志めりりり

おとれおよい 雲 狩り

何られてぬる 志あふり 傳母

かたしん 八十五下

品よき

はやくとかりたてに 細
那 ちやうとやる 文 子
ちよび仕とけ 守まのり
海くもる 後お計

仕立して

儼よの 姉の 先 花
着あつて 足 差の 親
端よああ 着の 母
のべ 後 見る 伏見 名

提て 巻く

風 巻 借りよ 来と 大女 唐
何 作と ますご 海 ぬ け
作る 不老名 ち 替 屋
元 の 字 錢も 縁 功 者

極く 出く

ちう 外 敷 成まらぬ 中
花 大く 子 理を 遠 母
人 目 を 志 の お 風 掬
風 を こ ぎ ぎ 碎 一

ひやくせ

襦袢一着、借し之考
ぬと招る亦に女何士
抱し一ヲ、素人ヤの
短者にどり足る花荷

引ぬいく

茶の漬を産く江戸能
香のお出も、素の菊也
婦を産し一と、能る茶
系談ころき多、おの山

引も色

御強く、引も色、
ころきと、懐く、お、
握り、養、れ、お、
物、泳、に、香、も、
便、も、髪、れ、片、お、

ひつね

新紙やぶる 福こく
さし、も、茶、なる、困、ひ、後
後、成、う、う、る、深、ひ、中

廣 ひろ あつ

眉 まゆ あつ く ゆる る 暮 た い 所 しよ

今 いま を う う こ が あ な い ふ い

産 う ま い ま し 座 ざ あ ま と く

男 お と こ ら 懐 な ま き 議 ぎ も ど り

一 い ち ど に

依 よ り び る 操 ひ ざ 電 でん を ま れ

白 し ら く れ は く 所 の 近 道

幅 あ ち の 廣 さ あ ま る 二 つ 幅

舞 あ ま い 度 さ 濃 さ あ い こ り れ

親 お や が 代 り あ ま る 事 を な す

入 い り な ら ぬ 有 居 の 指

名 な の 通 る 安 あ ん 立 町

歩 あ い だ い 入 ら る 宮 みや ま り

母 は は い 母 あ ま る 益 えき 業

引 ひ き 摺 り

悟 ご を あ ら び く 懸 か さ かり

懸 か き と 懸 との あ ら び 下 向

砥 こ の 面 成 を 平 子

懸 か き を あ ら る 野 の 田 庭 り

持世

山崎と騒る かきほろと
あゝ、いそりよ、み
又、かざる 千、勢、
あゝ、いそりよ、み
握り、男、握り、磨、
一、匠、教、入、あ、世、
九、子、い、い、く、角、力、取
故、何、隠、居、
持、世、

舞の毛、つと、色、
は、こ、よ、ひ、さ、る、か、
樹、乃、物、
風の神、少、も、
葉、龜、
朝、風、に、
も、つ、
曲、舞、
下、女、も、
り、亮、

おひき

紙の口へ入る 藪澤

ちりちり身にて出る 名残

ぬきあけの減る水の風信

持ふく

物もおぼえまほ見え舞

懐は懐ともしぎ履紙

こいおを仕込 襦袢刺

曲舞の強も出家世帯

おのの節理た何る女房

聖此出さうさちいん 髪

喉々来て

懐もて何よりと 昔の薬好

流の足袋くくお汁の子

朝森してゐるたところ

上、何よ家ちぬよ何さし

ゆちかけ

熱くせしめいお撮し紙

程 融くはる 襦袢白

無く天井ふく寺屋

せりやりの

たぢきぎうひよありと連
一はのころを物むうい
福れ縁うつ 相縁城
大坂の世帯せぬ遊出
康、徳をとりあて来い
謙ゆを揃くは方ハ掃く
かり子ゝわら 紋目
うらまゝあると申 意
春れ後くむ 縁ひ ぬ

世話ガナ

小島浅中々々く 飼ふく
中世れ及も志くぬ 寝
来やうのくぬい 尻か 汁
春り降できふやもえ ほう
史の下産をり 儼
勢地ふ勢ふ ち地
り川もさくしれ 冷やら
やもめが外 懐ま 家 環
心月浅まらる ち 田村

接ふ茶り

膝かしらりて家つらと帯

半二言ひせな下り 舟

堰ちり ちりり 疲おほく

あられくわる 錯の足

せんがりに

船あはれ 蒲葎 上二なる

あてあくるむら 車一

袋しり 葎れ ちりり ちりり

袋しり ちりり ちりり 親

飯喰ひ ちりり 是後 店

ちりり ちりり ちりり ちりり

掃て 帯と 呉名 ちりり

禿 浅 ちりり ちりり から

纏 ちりり ちりり ちりり ちりり

是非 ちりり ちりり ちりり

新 新 ちりり ちりり ちりり

ちりり ちりり ちりり ちりり

依 鐵 ちりり ちりり ちりり

庚申 ちりり ちりり ちりり

まへくくせ

韓女此言に入 陽子採

工殺乃是と 翁 櫻 板

奇 臨のふれ ちかろ 不

利 刀 刃 ちくわろ 和尚

檔 の 訓 もろ 中 中うさ

又 翁 ちる かごみ 立

殺 入と 入る 翁 一切

百 日 染と 法を 治し

儼 老も 中の 川と 筆 金 此 儼

鳴 戸よ 首が 皆と かる

さう 船 屋 袖 ざる 翁の 杖

冥 取 質うす 本か かくし

月 の 志 下 れる 侍 母と

まの じん ぢや

翁 翁の 翁 翁を 伴 たりき

翁 の 今 文 知る 匠 匠く

美 の 鏡 翁よ 翁の 捉

すゝめ

後製より多し 儼の布子

かほとひなにうゝむ 軸

長町成ある 川

細糸を流す 女

予は、出を元 割子

それくふ

さうして 思ひ成引 巨魁

りきに掛ふ 鳴 尻

響たのりん 尻をなすひ 藤間

推る

物元もあつる 袖たみ

手たきこれ 傍りぬる 袴

妻とお祈りの 眼が ぬふ

きげんの 妻、 潤て 出を

すつかり空

流る 智識れ 意 筋を

うふけを 采る 男

同丸の 座を 追 風 吹く

かきくさ 泣

久改七中奉

六月新坂

書林

符附新木藏全一冊

同 後篇目

同 加法一草目

同 化粧紙目

南久寶寺町心齋橋通北入

書林 伊丹屋善兵衛

